［グローバルに活躍する］

⑥ 海外インターンシップ・インタビュー―積極的なコミュニケーションの重要性を学ぶ―

佐藤未来子 東海大学　小倉信彦 東京都市大学

海外インターンシップ・インタビュー記事について

大学での「グローバル教育」は必須となりつつあり，英語によるプレゼンテーション，文化交流，短期留学など，学習方法の幅は広がっている．また，卒業後の進路として海外であるいは海外と働くことを考えたキャリア開発の必要性も増している．学生は，「海外で働く」というと，マイクロソフト，グーグルなどの有名外資系企業で働くことをイメージするかもしれない．世界のさまざまな地域で展開する日系企業も多い．本記事は，そのような海外の日系企業でのインターンシップを経験した学生へのインタビューである．

東海大学修士1年生の山本千夏さん，田部井真那さんが，大学4年生の2018年9月から3カ月間，タイにある日系自動車メーカで卒業研究を行いながら「海外インターンシップ」を経験する貴重な機会を得た（図-1）．パスポートを初めて取得した2人が，インターンシップへ行くまでの準備，現地で感じたことをインタビューした．そのインタビューから，外国人とのコミュニケーションについて，積極的な行動により，その成長の過程を感じることができた．この記事を参考に「海外で働く」ということを身近に考えるきっかけにしていただきたい．

海外インターンシップ体験

【質問（以下「Q」と記す）】海外インターンシップへ行くことを決めた理由を教えてください．

【山本】研究室の指導教員から話をいただき，海外インターンシップ経験が就活でメリットになるという話もあったので決めました．

【田部井】渡航に関してはむしろ嫌だったが，良い経験になると，両親や周囲に勧められて決めました．友人たちは「本当に行くの？」と半信半疑でしたが，3カ月のインターンシップを終えて帰国したとき，ほかの学生からは「そんなことができるのか」とうらやましがられました．

【Q】日本を離れて生活することに対する期待や不安について聞かせてください．

【山本】衣食住すべて不安でした．特にタイの食事が合うかを心配しました．でも，この経験を乗り越えられたら成長できると考えたし，現地の観光や異文化体験に期待して行きました（図-2，図-3）．

【田部井】言葉が通じないという環境で，初めての一



図-1　インターンシップ先周辺と観光地

人暮らしをする不安がありました．病気についても，ワクチンを 6 種類も接種[☆1]して備えましたが，体調管理などは不安でした．でも，これを乗り越えたら大体のことは乗り越えられるだろうと自分自身の成長に期待しました．

【Q】実際にタイではどのような生活を過ごしていましたか．

【田部井】毎朝電車通勤し，8 時～ 17 時で業務を行い帰宅する日々でした．月曜日の朝にウィークリーミーティングがあり，企業の方としっかりと話す機会が設けられていました．金曜日に提出するウィークリーレポートで 1 週間の業務を報告していました．3 カ月という長期間であったこともあり，進捗の遅れや困ったことなどを企業の方と共有しながら業務を進めた点が，学部 3 年時に日本で私が参加したインターンシップとは異なりました．

【Q】タイの生活に必要な言葉に関して，役立った対策方法などはありますか．

【山本】喋れなくても聞きとれるようにという目的で本を買い，タイ語を覚えていきました．日常で使う言葉だけを重点的に覚えると，現地で困らないと思います．たとえば「これは辛いですか？」という質問をよく使いました．

【田部井】タイのガイドブックで料理や物の名前をカタカナで覚えていきましたが，現地でタイ語は読めなくて困りました．音を中心に覚えることが大事で，現地でお店の人と会話しながら覚えました．タイの人はこちらがしゃべるのを待ってくださるので，その間に英語の単語などをつなげて身振り手振りで伝えました．海外インターンの話を受けたのが，大学院受験の 1 週間前だったので，英語は受験勉強していましたが，英作文が中心でした．リスニングを強化しておけばよかったと思いました．

【Q】現地でのインターンシップ中に苦労した点をお聞かせください．

【田部井】やはり言語で苦労しました．質問したいときに，どのように英語にすればよいか，考えをどう伝えるのかに苦労しました．また，相手の質問を正しく理解して答えることに苦労しました．

【山本】海外インターンシップでは業務が伴ったため，勉強に割ける時間が限られてしまい苦労したのですが，この経験から大事なことに集中すること，スケジュール管理により効率をあげる方法などを学びました．言葉の問題に関しては，たとえば，ライドシェアサービスを多々利用したのですが，その電話でのやりとりがあります．「どこにいるの」という簡単なやりとりですが，最初，英語やタイ語で指示された場所で車を拾うのに苦労しました．

【Q】言語面以外（仕事，生活，友だち）で苦労したことや，うまくいったことはありますか．

【田部井】インターンシップ中に国際会議 APRIS2018 に参加し，そこで開催されたロボッ

[☆1] 予防接種：外務省 Web ページに渡航先別に予防接種が掲載されている．ビザ発給やインターンシップ受け入れに予防接種が必要となることもある．



図 -2　日本食の普及・タイでの昼食



図 -3　長距離バスのチケット売り場

トチャレンジで同じチームになったタイの学生とFacebookを通じて連絡をとりあう仲になりました．また，現地のお店の常連客となり，店員さんにローカルな生活情報を教えてもらい「これの方が安い」など，お得な情報をもらえました．現地のローカル情報を得るということは，単にTOEICの点数が高いだけではなく，コミュニケーションを図れる人でないとできないことだと思います．

【山本】現地の人と話すときに「タイ語を学んでいます」と言うと，周囲の方々がタイ語を積極的に教えてくれました．逆に日本語を教える機会もあり，お互いが教師となり言語を教えあいました．

【Q】今後に役立つこと，すでに役立っていること，成長したなと思うことなどを教えてください．

【田部井】今回のインターンシップで英語に対する嫌悪感をいだかなくなりました．タイ語で分からないものを英語に訳してくれるなど，英語を使ってくれる人が「ありがたい存在」となっていました．また，言葉が分からず言いたいことが伝わらなくても人とかかわり伝えようとする行動に出られるようになったのは大きな変化でした．

【山本】これまでは「英語だから読まない，聞かない」という行動が無意識に多かった気がします．今回のインターンシップでこの「英語の壁」を低くすることができました．たとえば，以前は英語でかかれたネットサイトを避けて情報収集をしていましたが，今では英語サイトを含めて説明や情報を探すようになりました．



図-4　タイの学生と実施したAPRIS2018ロボットチャレンジの様子

【Q】インターンシップはどのくらいの期間が適切だと思いますか．

【田部井】行く前は長いと感じましたが，今回の「3カ月」というのはちょうどよかったと思います．最初の1カ月目までは生き抜くのに必死でしたが，それから余裕ができて多少楽になり，業務にも慣れてきたころに終わった感じがしました．

【山本】やれと言われれば「イヤ」と答えると思いますが，6カ月がベストだと思います．3カ月でタイ語，英語が聞けて話せるようになり，環境に馴染んだのが3カ月目でした．通常の学生であれば海外インターンシップの期間を1カ月くらいと考えると思います．しかし，体験すると1カ月では短いということがよく分かります．今回のインターンシップは2人で行けたので，途中でくじけずに過ごすことができました．1人だったら1カ月が限界だったと思います．

【Q】もっとこうすればよかったなど，反省点はありますか．

【田部井】もっと積極的にコミュニケーションをとればよかったです．たとえば，APRIS2018では会話にタイ語が使われていることが多かったため，途中の議論を英語で教えてもらうシーンが多かったです．英語を使ってもっと積極的にかかわるチャンスを作れたと後から思いました．

【山本】インターンシップやAPRIS2018でもっと友だちを作ればよかったと思いました．APRIS2018のロボットチャレンジ（図-4）ではグループワークを行いましたが，他のグループのメンバと会話する機会が少なかったので，もっと積極的に話すようにすればよかったです．

【Q】日本では体験できない貴重な体験をされたと思いますが，タイならではの経験や文化の違いについて教えてください．

【田部井】現地で知った習慣として，たとえば生活面では，常夏だと聞いていたので長袖を持参しなかっ

たのですが，冷房の強いところで長袖を着こなすことがオシャレだということに驚きました．また，仏教国で常夏なのにクリスマスにはトナカイ（のかわりに象）といった冬の風習もあることにも驚きました．食事を残さないといけないこと，食器を持たずに食べる食習慣なども現地で知りました．朝8時，夕方18時に駅で国歌が流れ，タイ人は立ち止まって聞くという習慣も驚きました．

【山本】日常生活の虫の対応に違いがあります．日本では過剰に虫を駆除すると思いますが，タイではゴキブリが出てもひっくり返して放置しています．また，振る舞われた食べ物をレストランから持って帰ることができます．

【Q】思いもよらなかった発見や驚いたことなどはありましたか．

【田部井】電車の切符は紙ではなく「トークン」という黒い磁気コインを使います．トークンを買い，入り口では，トークンを当て，出口にある穴へ返却するという方法でした．通勤のときはいつも，日本と同様に満員電車に乗りました．その際は，トークンではなく，ICカードを使いましたが，チャージは窓口で行わなければなりません．時刻表や駅でのアナウンス，ベルというものはなく，5～6分ごとに来る電車に乗るという方法でした．

【山本】野良犬，カエル，蚊には注意が必要で，インフラにも気を使いました．水道水は飲めません．歩道は凸凹していてレンガ造り，途中のレンガが抜けていて，捻挫しそうなこともありました．

【Q】海外インターンシップをどんな学生にすすめたらよいと思いますか．

【山本】比較的大雑把な性格の方がよく，コミュニケーション能力が高い学生が向いています．また，タイ人は礼儀正しく，祭壇に手を合わせる人が多いです．そういった文化を理解して尊重できる素養が必要だと思います．

【田部井】長期のインターンシップであるため，さぼることなく時間で動ける，挨拶ができるという生活の基本ができている必要があると思います．

【Q】海外インターンシップを目指す学生，これから考えてほしい学生へのアドバイスをお願いします．

【田部井】海外で働くことに興味があり，やる気があれば，TOEICの点数が十分でなくても，数カ月程度，準備すれば，生きて帰って来られます．

【山本】興味のある学生は，まずは，動きだせばなんとかなるので，流れに身をまかせ一歩を踏み出してみてほしいです．海外インターンシップを考えていない学生も，就活時の自己PRで海外インターンシップの話ができるので，ぜひ体験してほしいです．

海外経験の勧め

海外インターンシップをしてきた学生の体験談を紹介した．渡航経験のなかった学生たちが大学の卒業研究中の3カ月間を海外のインターンシップに費やした経験により，業務体験や異文化交流を通して飛躍的な成長を遂げたと指導教員も本人たちも実感している．積極的な行動ができて，コミュニケーションが図れる学生には，ぜひ渡航のチャンスを見つけてほしい．そしてこのインタビュー記事を参考にして，海外インターンシップのチャンスがあれば，大きな成長を期待して積極的にチャレンジしてほしいと思う．

（2019年4月22日受付）

佐藤未来子（正会員） mikiko.sato@tokai.ac.jp
1990年東京農工大学大学院工学研究科修了．同年（株）日立製作所入社．2006年東京農工大学大学院博士後期課程修了．工学博士．現在，東海大学特任准教授．組込みシステム，進化計算に関する研究に従事．

小倉信彦 ogura@tcu.ac.jp
1997年東京工業大学大学院理工学研究科修士修了．博士（工学）2005年より武蔵工業大学講師，現在，東京都市大学 メディア情報学部情報システム学科准教授．信号処理に関する研究に従事．